

## ■温室効果ガス削減の目標

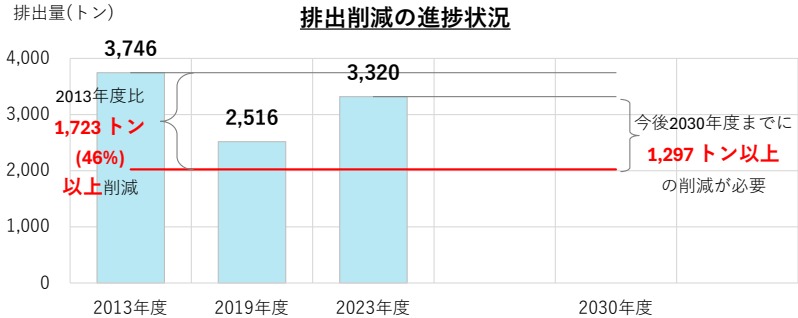
	削減目標 (政府目標値)
2030年度	2013年度比 46% (1,723トン) 以上
2050年度	カーボンニュートラル

## ■温室効果ガス排出量の推移

北九州空港の2023年度の温室効果ガス排出量は、2019年度比804トン増加の3,320トンである。2030年度の削減目標 (2013年度比46%以上の削減) の達成には、今後1,297トンの削減が必要である。

	温室効果ガス排出量(トン)		
	2013年度	2019年度	2023年度
空港施設	3,498	2,244	2,984
空港車両	248	272	337
計	<b>3,746</b>	<b>2,516</b>	<b>3,320</b>

※小数点以下の端数処理により合計値が整合しないことがある



主に契約されている電力会社の排出係数・・・2013年度：0.599、2019年度：0.347、2023年度：0.475

## ■2019年度～2023年度の温室効果ガス排出量の増減背景

北九州空港では、コロナ禍前 (2019年度) と比べて2013年度の航空機の運航回数は87%、旅客数は74%程度に留まっており、さらに脱炭素化施策の取組が行われているが、上屋施設の整備による空港建築施設の拡大や、主に契約されている電力会社の排出係数上昇を背景に、温室効果ガス排出量は2019年度に比べて増加した。

## ■脱炭素化施策の取組状況

空港施設に係る取組	<ul style="list-style-type: none"><li>▶ 建築施設照明のLED化や省エネルギー運用等、空調の高効率熱源の導入、空調・換気の省エネルギー運用等の取組が行われた。</li><li>▶ 航空灯火のLED化の取組が行われた。</li></ul>
空港車両に係る取組	<ul style="list-style-type: none"><li>▶ 電動車の導入が行われた。</li></ul>
再エネ導入促進に係る取組	(当該期間に新たに実施した取組に関する情報なし)
その他の取組	<ul style="list-style-type: none"><li>▶ 再エネ由来燃料による空港アクセスバスの実証運行が行われた。</li></ul>